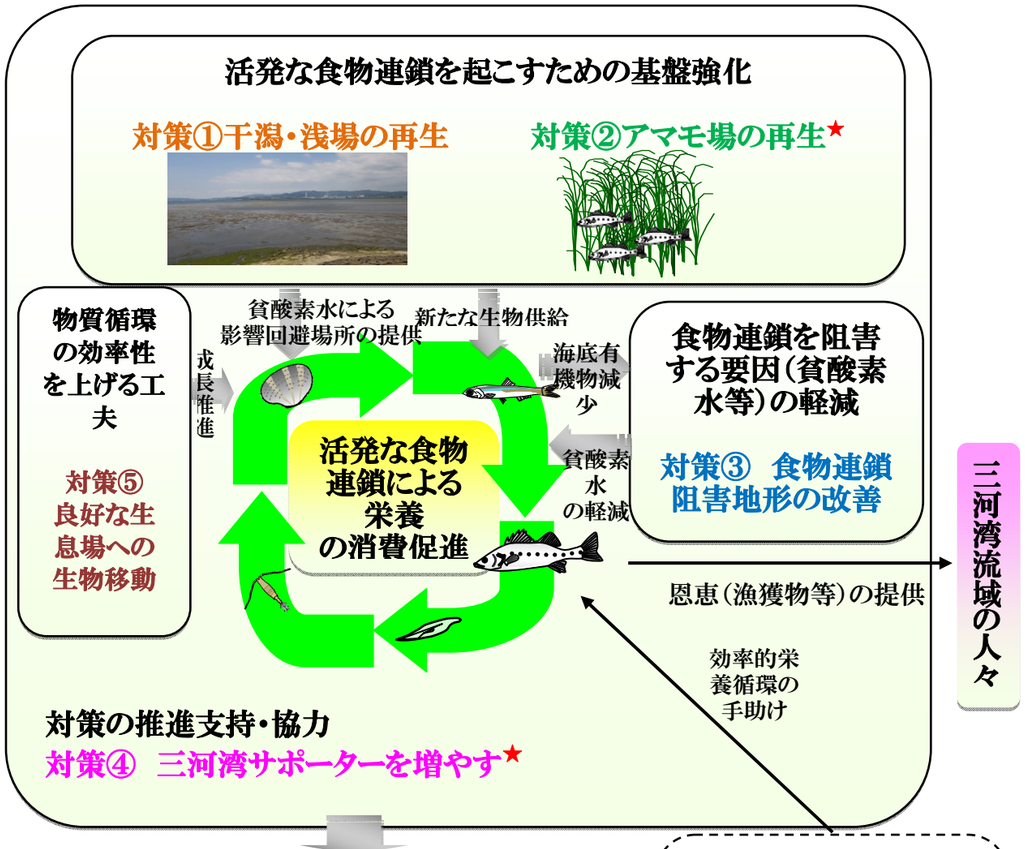
三河湾ヘルシープラン
～生物溢れる豊かな海に再生するために～

三河湾ヘルシープランとは何？

- ✓ 三河湾は、多くの生物が生活するかけがいのない場所で、私達の生活は、三河湾から得られる豊かな恩恵に支えられています。
- ✓ 三河湾では、高度成長期（昭和40年代）を中心に行われた埋立などの沿岸の開発、流入負荷の増加により、貧酸素水の拡大などの問題が生じ、生物が減少し、さらに生物の減少が物質循環を滞らせてしまう「悪化スパイラル」の状態に陥っています。
- ✓ 昭和45年には水質の環境基準が設けられ、河川から流れ込む主に無機態の栄養が減らされましたが、その後、一向に問題は解消しません。それは、なぜでしょうか？
- ✓ このような過去の教訓を活かして、三河湾を豊かな海に再生するためには、流域の人々の協力によって、今後どのような対策を行っていくべきかをまとめたものが、このヘルシープランです。

Q1. 三河湾を豊かな海にするための対策とは？
A1. 食物連鎖を活発にする対策とそれを支える三河湾サポーターが必要です。



生物の生産力が高い浅海域と河川等から流入する栄養を活かして、多様な生物がそれぞれのネットワークの中で再生産され、その活発な食物連鎖によって栄養が滑らかに循環する豊かな海

活発な食物連鎖を起こすための基盤強化
対策⑥ 適切な栄養の保持 new!

★は今後力を入れていくべき対策、new!は今後必要性を含めて検討すべき新たな対策

Q2. 今後、どのような体制で対策を実施していくの？
A2. 既存の実行体制を十分に活用して、流域の人々が協力して、PDCAサイクルを取り入れて実施していくことが必要です。

これまで実施された主な対策　対策①　干潟・浅場の再生
中山水道航路の浚渫砂を用いて干潟・浅場の再生（H10～H16）
実施主体　国土交通省中部地方整備局・愛知県

今後も継続すべき対策
PLAN&DO　対策①　干潟・浅場の再生　＆　対策③　貧酸素水助長地形の改善（深堀跡の埋戻しなど）
想定実施主体
国土交通省中部地方整備局・愛知県

今後も継続すべき対策
PLAN&DO
対策⑤　生物の移動（良好な環境へのアサリ移植放流）
想定実施主体　漁業者

CHECK　対策実施効果検証モニタリング
想定実施主体　上記対策実施主体など

今後、力を入れるべき対策
PLAN&DO　対策②　藻場（アマモ場）の再生
想定実施主体　漁業者を中心とした地元協議会
これまでの実績
☆　蒲郡市漁場環境保全協議会（漁業者、漁協職員、学校、その他一般企業）、幡豆地区干潟・藻場を保全する会による対象海域周辺のアマモによるアマモ場再生（H21～）

CHECK　対策実施または検証試験効果検証モニタリング
想定実施主体　上記対策実施主体など

CHECK による目標達成度に応じて）ACTION
対策⑥　栄養塩類の保持
検討想定主体　学識者や行政を中心とした地元協議会

PLAN&DO
対策④
三河湾サポーターの増加
想定実施主体
三河湾流域の人々すべて
具体内容
ゴミの削減、環境教育の推進、海とふれあえる場の再生、現状の把握・アピール

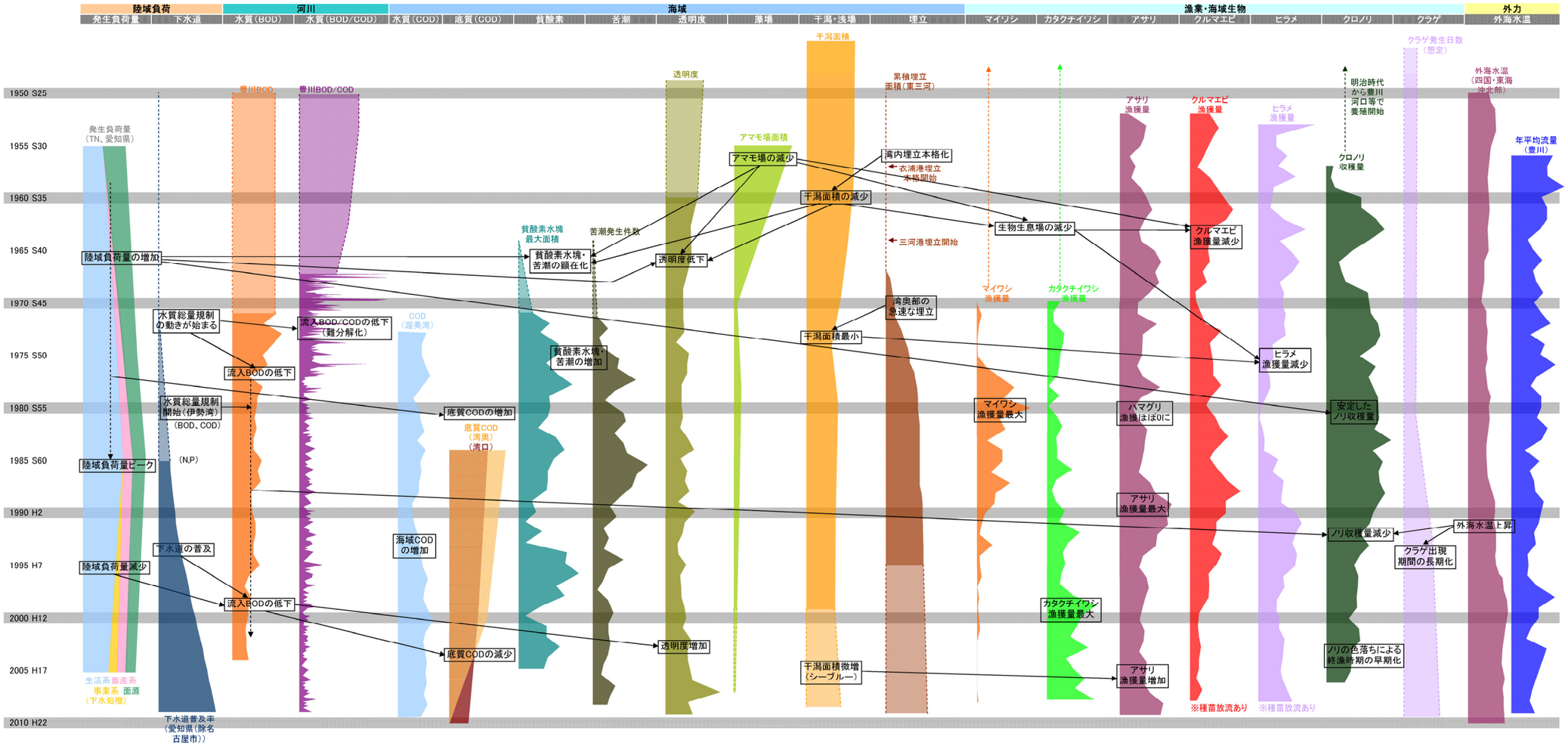
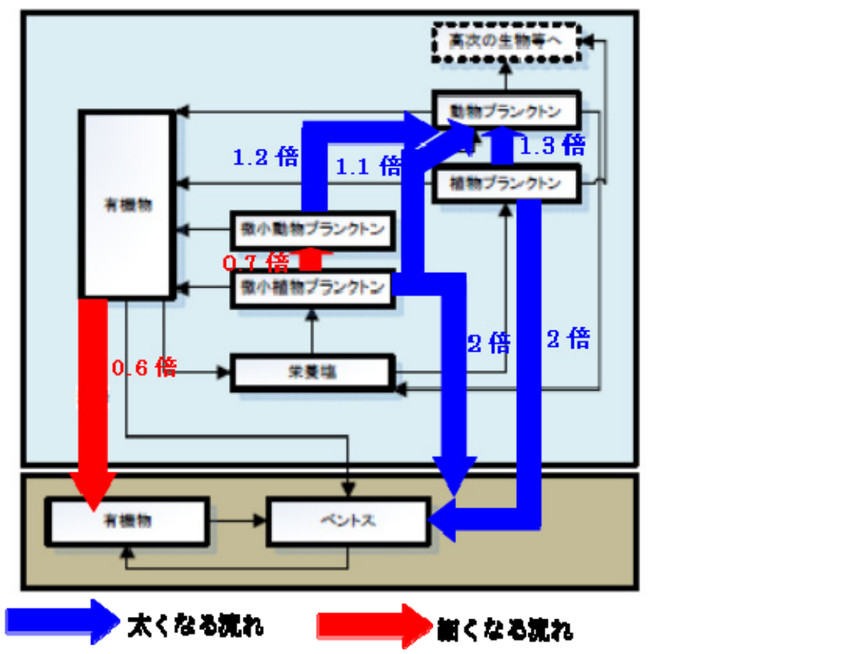
Q3. 今後、対策を実施していくための課題は？
A3. 上記の対策を円滑に進めていくためには、次の3点の課題があります。

○課題①　干潟・浅場造成材の不足→流域連携を通じた造成材の準備
干潟・浅場の再生を円滑に実行していくためには、その材料となる砂等を大量に準備する必要があります。

○課題②　アマモ場再生活動の継続・拡大
現在、三河湾で行われている漁業者が中心となったアマモ場の再生が継続的に、三河湾内の他の地域でも同様に実施されるように、成果をアピールしていく等、支援していく必要があります。

○高次生態系の役割に関する定量的検討
今後、対策⑥の必要性やその実施規模を適切に検討していくためには、本検討のモデルでは十分に扱えなかった、生態系の上位生物の役割評価が必要です。上位生物に関するモニタリングを充実させて、上位生物を通じて消費される栄養の流れを精度良く再現することが必要です。

Q4. なぜ、三河湾は健全（ヘルシー）な海ではなくなったの？
A4. 埋立・開発により干潟・浅場・藻場が減少した影響が大きいと考えられます。



Q5. 対策によって三河湾はヘルシーな海に戻りそう？
A5. 物質循環のモデル計算結果から、対策によって、浮遊生態系から底生生態系の物質循環が現状に比べて約2倍程度と太くなり、三河湾内の物質循環が円滑になり、その結果、海底に沈降する有機物は現状の約 60％程度になることが推測されました（右図参照）。対策によって海底へ沈降する有機物は徐々に減少し、三河湾の課題となっている貧酸素水の規模の縮小にもつながるものと考えられます。